

〔国際シンポジウム〕

近代台湾の経済社会変遷 —日本とのかかわりをめぐって—

日時 2012年8月4日（土）、5日（日）
場所 愛知大学名古屋校舎 L705 教室

本学名古屋校舎開講記念として、愛知大学東亜同文書院大学記念センターと台湾・中央研究院台湾史研究所共催による国際シンポジウムが開催されました。これは、文部科学省に採択された平成24年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の一環でもあります。

本シンポジウムには、日本・台湾総勢29名の研究者と、約150名の聴講者が参加されました。近代台湾、とりわけ戦後台湾における日本の影響の連続性と断絶性というテーマを日台で集中的に議論したのは、日本で初めてかと思います。このシンポジウムにおける「セッション1」のみを抜粋します。

なお、8月4日（土）は、愛知大学オープンキャンパス開催日であり、本学を見学する生徒・ご父母も参加されました。

